

この秋は台風の上陸、ラグビーワールドカップ、天皇即位の礼など、大きなニュースが相次ぎました。また、来年のオリンピックのマラソン、競歩を札幌で開催しようという話が突然論議され始めています。

1964年の東京オリンピックの開会式が気象データから最も晴天率の高い10月10日に決められたというのは有名な話ですが、秋は秋澄む、秋爽などの季語にありますように最も過ごしやすい季節のように思われます。皮膚疾患に悩む患者さんにとっても、夏の汗をかく時期や、冬の乾燥する時期は痒みが悪化し、また春は花粉症に悩む患者さんも少なくないので、秋の花粉症もないわけではありませんが四季のうちで最も過ごしやすい季節としてよいのではと考えていました。しかし、ここ数年こういった考え方が必ずしも正しくないように思えてきました。このような話を例えばアトピー性皮膚炎の患者さんに話すと、「いや良い時期なんてありませんよ。暑い暑いと思っていたら一気に寒くなりますから」という声を複数の患者さんから聞きます。我が家でも、今年は最後に冷房をつけた5日後には暖房を始めていますので、確かに患者さんから指摘されたように、快適な秋の日々はあまりないようにも感じられます。人間にとって快適な気温とは、湿度や風、服装などに左右され一概に決めることは難しいのですが、この時期はだいたい18～22℃と書かれているものがありました。そこで、気象庁の気象データから東京都における10月の各日の平均気温をみると、この範囲に収まっているのは2017年では7日しかなく、初旬は22℃を超える日が3日ありましたが、中旬以降一気に15℃程度の日が続いていました。2018年はこの範囲に収まる日が14日ありましたが、前半は暑い日、適温の日、寒い日が交互に入れ替わりながら後半は寒い日が続くようになっていました。今年はどうかというと、前半は例年より暑い日が続いた後、適温の日が1週間弱あり、その後暑い日を挟んだ後17℃以下の日が続くようになっていきます。10月は徐々に気温が下がっていきますので、後半は気温の低い日が多くなるのは当然として、確かに快適な気温の日が長く続くというわけではなさそうです。

さて、今月号の特集は膠原病です。寒さには気をつけたい疾患ですが、最近の治療法の進歩には目を見張るものがあります。新人のときに受け持った全身性エリテマトーデスの患者さんが思い起こされ、今だったらこんな治療が可能なのにと彼我の差を感じないわけにはいきません。

(五十嵐敦之)

— 問 題 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第61巻 第12号 11月増大号 2019年11月1日発行（毎月1回1日発行） 定 価（本体 4,400 円＋税） 年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発 行 所 金原出版株式会社 発 行 者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
--	---

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- 〔JCOPY〕＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。